

令和7年度 第1回

鎌ヶ谷市総合基本計画審議会 会議録

1 日 時 令和7年11月26日（水）午前9時30分から11時40分

2 場 所 鎌ヶ谷総合福祉保健センター 6階大会議室

3 出席者

(1) 審議会委員 ※敬称略、会長及び副会長は会議の中で選出

ア 会長：藤井 敬宏（日本大学理工学部非常勤講師（元教授））

イ 副会長：稲葉 祐美（鎌ヶ谷市生涯学習審議会会長）

ウ 委員：井手 勝則（鎌ヶ谷市商工会会長）

エ 委員：徳田 訓康（社会福祉法人鎌ヶ谷市社会福祉協議会会長）

オ 委員：本村 穰治（鎌ヶ谷市スポーツ協会副会長）

カ 委員：杉本 卓也（鎌ヶ谷市環境審議会副会長（千葉商科大学教授））

キ 委員：朽木 量（鎌ヶ谷市教育委員会委員（千葉商科大学教授））

ク 委員：大木 亜都（子ども・子育て会議 公募委員）

ケ 委員：秋山 秀一（都市計画審議会会長）

コ 委員：大野 里美（鎌ヶ谷市空家等対策協議会委員）

サ 委員：小川 康博（千葉県東葛飾地域振興事務所 所長）

シ 委員：井上 誠（習志野健康福祉センター副センター長）

ス 委員：土屋 晃子（公募委員）

セ 委員：齊藤 武（公募委員）

(2) 鎌ヶ谷市職員出席者

芝田市長、葛山総務企画部長、田口総務企画部参事、青木市民生活部長、
小笠原健康福祉部長、浅野都市建設部長、大塚生涯学習部長、矢ノ目消防長

(3) 事務局

杉山企画財政課長、里見企画政策室長、波木井主査、島村主査補、
稲葉主任主事、業務受託者（株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング）

4 記録者 企画政策室 波木井

5 傍聴者 4名

6 会議概要

(1) 開会

(事務局)

それでは、定刻となりましたので、令和7年度第1回鎌ヶ谷市総合基本計画審議会を開始いたします。本日はお忙しい中、本審議会にお集まりいただき、ありがとうございます。本日は第1回目の会議となりますので、後ほど会長の選任が行われるまでの間、事務局で司会の進行を務めさせていただきます。進行につきましては、事前に送付しました次第に沿って、進めさせていただきます。

(2) 委員の委嘱

(事務局)

はじめに、次第の「2 委員の委嘱」を行います。市長から委嘱状を交付いたしますので、お名前を呼ばれた方は、自席にてご起立をお願いいたします。

～ 委嘱状を交付 ～

(事務局)

本日ご欠席の、北原理雄様、横井道男様、山崎明様、廣部信隆様、園部宗平様につきましては、後日、事務局より委嘱状を郵送いたします。

(3) 市長あいさつ

(事務局)

続きまして、芝田市長からご挨拶を申し上げます。

～ 芝田市長 挨拶 ～

(4) 自己紹介

(事務局)

続きまして、次第の「3 自己紹介」に移ります。

本日は第1回目の会議ですので、皆様から自己紹介を賜りたいと思います。

～ 各委員および事務局から自己紹介 ～

(事務局)

芝田市長は他に公務がございますので、ここで退席させていただきます。

～ 芝田市長 退席 ～

(5) 議題

ア 会長、副会長の選出について

(事務局)

続いて次第の「5 議題」「(1) 会長、副会長の選出について」に移らせていただきます。「鎌ヶ谷市総合基本計画の策定に関する条例」第9条第1項の規定により、「審議会に会長及び副会長各1人置き、委員の互選により定める」となっております。つきましては、どなたか会長になることについて、立候補又は推薦のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(委員)

はい。

藤井先生は、市川市、市原市、我孫子市、八千代市において総合計画の審議会の会長を歴任されておりますし、地方行政や公共政策に関して広い見識をお持ちの方であります。また、鎌ヶ谷市においても都市計画道路網の策定検討委員会の会長を務められ、都市計画道路整備プログラム、都市計画道路の整備・優先順位の策定に携わるなど、鎌ヶ谷市との関わりも深い方であります。今回の審議会の趣旨からも会長となつていただくのに適任の方ではないかと思ひます。

(事務局)

ただ今、日本大学理工学部部の藤井委員を会長にとの推薦がございましたが、他に立候補、又はご推薦はございますでしょうか。

無いようであれば、藤井委員を会長に選出することを決定しますが、ご異議ございませんか。

～ 異議なし ～

それでは、ご異議なしとして、藤井委員を会長として決定します。

次に副会長を選出したいと思ひます。会長の選出と同様、立候補又は推薦のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(委員)

副会長には、鎌ヶ谷市子ども会育成会連絡協議会の顧問であり、鎌ヶ谷市生涯学習審議会の会長である稲葉委員が適任だと考え、推薦させていただきます。

(事務局)

ただ今、生涯学習審議会会長の稲葉委員を副会長にとの推薦がございましたが、委員の皆様いかがでしょうか。

～ 異議なし ～

それでは、ご異議無しとして、稲葉委員を副会長として決定します。

それでは、ここから先の進行は、藤井会長に議事進行をお願いいたします。

(会長)

それではただいま、議長を務めるという形で仰せつかりました。

改めまして、日本大学理工学部で現在非常勤講師を務めております藤井と申します。よろしくお願ひいたします。

初めてでございますので、少しご挨拶をさせていただきます。

私の専門は都市交通計画という領域になります。どちらかと言ひますと、今困っている人たちの移動の問題をどう考えるのかといった、計画論でいうとフォアサイト型、今ある問題をどうやって解決していこうかというアプローチで、長らく40数年、大学で関わって参りました。

その中でこの総合計画については、先ほどご紹介いただいたとおり、千葉県内、もう一つ静岡の総合計画審議会も務めているところでございます。総合計画になぜ

こんなに関わっているのかと申しますと、計画論の中でも、将来、この鎌ヶ谷は計画期間12年でございますが、以前は20年近いぐらいの長いスパンの中で市の政策論を考えると。長期を見据えて今をどう考えるのかという、環境計画でいうようなバックキャスト型のような形で、将来に向かってどうやって前を進めていこうかという、私はこれまで都市交通計画でやってきた直近の問題に向き合う話に比べると、非常にスケールは逆のイメージの中で問題を解決していくと。

さらに、人の移動というだけではなくて、そこに生活する方、暮らしている方、学ぶ、働く、さきほど「憩う」というキーワードも出てきたかと思います。

そこに交通を重ねると都市ができてくる。そういったところで、総合計画というのは非常に面白いなと感じております。面白がってはいけないうのでございますが、非常に突き詰められている問題は多岐にわたり、かつ深い問題があるというふうに考えております。そういった中で、自治体の取組に関わらせていただくのには、私も興味を持って前に向かっていける一つのテーマだというふうに取り組んでおります。

これから皆様方に、それぞれの専門分野でございまして、いろいろご意見を頂戴しながら、都市交通計画というところでの「交通整理」は何か私の方でさせていただきますが、専門のところではいろいろ教えていただきながら前に進めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

イ 会議の公開について 会議録署名人の選出について

(会長)

それでは次第の順に進めて参りますが、会議の公開及び会議録署名人の選出につきまして、お諮りして参ります。まず事務局よりご説明いただけますでしょうか。

(事務局)

それでは、会議の公開及び会議録署名人の選出についてご説明させていただきます。資料7をご覧ください。

はじめに会議の公開については、「鎌ヶ谷市における審議会等の会議の公開に関する指針」第3に基づき、原則として公開とされており、会議の傍聴や会議録のホームページ掲載などを行うこととされており、

非公開にすることができる例外として、個人情報に関わるものや、率直な意見の交換もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれる恐れがあるものなど、7項目が情報公開条例で定められております。

事務局からの提案といたしましては、この会議の趣旨が、鎌ヶ谷市総合基本計画後期基本計画の策定において議論いただくことを目的に行うものであり、会議を公開することが適当でない認められる特段の事情がないことから、会議は公開とすることを提案するものでございます。

次に、会議録の作成につきましては、同じく会議の公開に関する指針の第7に基づきまして、会議の公開・非公開にかかわらず会議録を作成し、会議録署名人の署名を受けることとなっております。署名人は、会議ごとに二名ずつ選出していただ

ければと思います。

そこで、本日の会議の署名人といたしまして、会長と副会長、また欠席者を除きました委員名簿順に選出させていただくこととし、名簿の上から、鎌ヶ谷市商工会長の井手委員と、鎌ヶ谷市社会福祉協議会会長の徳田委員に署名人となっただくことをご提案いたします。

なお、会議録に関しましては、発言要旨を記載したものとし、公開の際は発言内容と委員が明確に特定できないよう、委員と置き換えさせていただきます。

説明は以上となります。

(会長)

ただいま事務局よりご説明ございました、会議の公開、会議録署名人の選出について、それぞれ事務局提案でよろしゅうございますでしょうか。

～ 異議なし ～

(会長)

それでは会議は公開といたします。

また、会議録署名人は井手委員と徳田委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、これから会議を進めて参りますが、傍聴人の方がいらっしゃるとお伺いしておりますので、ご入場いただければと思います。

～ 傍聴人入室 ～

(会長)

傍聴人の方が入室されましたので、会議を進めて参りたいと思います。

ウ 鎌ヶ谷市総合基本計画後期基本計画の策定について

(会長)

本日の議題でございますが、議題4、5というところで二つございます。それぞれ事務局よりご説明いただいて、ご質疑をしていただくという形で進めて参りたいと思います。

また、6番目に「その他」という項目がございます。もちろん議題ごとに各委員の皆様方からご質問、ご意見等いただければありがたいのですが、本日初めての会議でございますので、ぜひ皆様方の総合計画に関わる思いであるとか、あるいは4、5の議題に関しまして、全般を通して、お話しできなかったなといったようなこと、あるいは、お感じになったこと等を、最後「その他」のところで、全員の方に順番にお話を伺う時間を取りたいと思いますので、その旨ご了解いただけますようよろしくお願いいたします。

それでは早速でございますが、「鎌ヶ谷市総合基本計画後期基本計画の策定につ

いて」、事務局よりご説明お願いいたします。

(事務局)

それでは、議題(4)「鎌ヶ谷市総合基本計画 後期基本計画の策定について」、資料2に基づき、ご説明いたします。

まず、資料の1ページでございます。本市の市政運営の基本方針である「総合基本計画」については、令和8年度で「前期基本計画」の期間が満了することから、新たに、令和9年度から令和14年度までを計画期間とする「後期基本計画」を策定するものです。

続いて、資料の4ページをご覧ください。後期基本計画では、基本的な考え方として、「(1)多様な主体の参画」「(2)数値目標に基づく計画」「(3)事業の重点化」この3点を柱として計画を進めてまいります。

資料の5ページをご覧ください。計画策定にあたっての留意点は5つあります。「(1)多様化する市民ニーズや国の動向、社会環境の変化への対応」「(2)市の特性、地域資源の活用」「(3)分野横断的な視点」「(4)行財政改革推進プランとの一体的な策定」「(5)地方版総合戦略の包含」、以上の5点に留意しながら、計画を作成していきます。

続きまして、資料の8ページをご覧ください。資料の8ページから20ページまでは、後期基本計画の策定に向けて、本市の現状分析を行っております。

資料9ページでは、人口推計を示しております。

資料10ページでは、少子高齢化の状況について、国、千葉県、鎌ヶ谷市を比較しています。

資料12ページ、13ページでは、本市の財政状況を示しております。鎌ヶ谷市の財政は決して楽観できる状況ではなく、今後も徹底した行財政改革を進めていく必要があります。

資料14ページでは、鎌ヶ谷市の公共建築物の老朽化の状況を示しています。公共施設の維持管理は、本市でも例外ではなく、継続して取り組まなければならない重要な課題です。

資料15ページをご覧ください。本市のまちづくりの状況を示しております。令和6年度には、新京成線の連続立体交差事業が完了したところです。また、新鎌ヶ谷駅南側に隣接する東京10号線延伸新線用地の跡地利用として、15階建てマンションや、コープ共済の中核拠点となる6階建てのオフィスビルなど、新たな建築が予定されています。さらに、成田方面から東京外郭環状道路までを結び、本市の発展が期待される北千葉道路についても、地籍調査に着手したところですが、早期の事業化と効果発現に向け、整備促進に取り組んでおります。

続いて、資料の21ページをご覧ください。21ページから25ページまでは、前期基本計画の評価を示しております。

最後に、27ページをご覧ください。後期基本計画の策定にあたっては、図に示すように、庁内での検討に加え、市民の参画、総合基本計画審議会への諮問・答申、そして、市議会との連携を図りながら、策定を進めてまいります。

現在、本方針に基づき、令和7年度は、図の右側「市民・団体等」のうち、上から2段目に記載の、高校生、中学生、小学生、各種団体を対象としたアンケート調査の実施を進めております。また、その下の段にある、ライフステージ別・施策分野別のグループヒアリング（意見交換会）についても、実施を進めているところです。

説明は以上です。

（会長）

はい、どうもありがとうございました。

ただいまご説明いただきました策定方針でございますが、こちらの資料に関しましては事前送付という形をとらせていただき、その中で各委員の皆様方からご意見をいただくという形をとっております。まずは、事前にいただいたご意見に対しまして、資料3という形で当日配布資料にまとめられておりますので、そちらを事務局からご説明いただいた後、また皆様方のご意見等をいただきたいと思います。

それでは事務局、説明よろしく願いいたします。

（事務局）

では当日配布資料3をご覧ください。こちら、いただきましたご意見です。

●NO. 1（資料2：2ページ）

2ページ目の図表3「前期基本計画の構成」の図でございます。こちら、「重点プロジェクト1～3」と「基本目標1～5」の関係がわかりやすく、明確にした方がよい。例えば、重点プロジェクトに基本目標・政策を追記してはいかがか、というご意見をいただいております。

こちらにつきまして、前期基本計画では、基本構想で定めた5つの基本目標を踏まえ、各分野において重点的かつ優先的に、また横断的に取り組むものとして3つの重点プロジェクトを設定したものでございます。現行の図表では、3つの重点プロジェクトと5つの基本目標の関係がわかりづらいとのご意見を踏まえまして、後期基本計画の策定に当たりましては、例えば色分けや矢印等で各プロジェクトと基本目標の関連を直感的に理解できるよう、工夫して参りたいと考えております。

●NO. 2（資料2：22ページ）

22ページ「状態指標」についてのご意見でございます。目標欄での上矢印・下矢印の記載から向上させたいなどの意図は読み取れますが、項目でそのように記載してはいかがか。例えば都市基盤では「印旛沼の水質の向上」となっていますが、環境では「河川の水質（BOD値）」という表記になっています。どちらも水質を良くするという目標として表記を統一されるのが良いと思います。また防災等についても同様のご指摘をいただいております。「指標」という表記にこだわるのであれば各項目だけが適切になるとは思いますが、今回の表のタイトルでは「目指す方向性」とありますので、「向上」「減少」などまで記載してはいかがか、というご意見です。

こちらにつきましては、ご指摘のとおり、指標名称が「印旛沼の水質の向上」といった目標志向の表現になっているものと、「河川の水質BOD値」のように単な

る数値項目を示すものが混在している状況でございます。後期基本計画策定の中で、状態指標の設定に当たりましては、表記を統一していくことを含めまして、より伝わりやすい名称となるよう工夫して参ります。

●NO. 3 (資料2:23ページ)

「成果指標」についてのご意見でございます。基準値・現状値・目標値で乖離が大きい場合、今回の計画策定で目標値の再設定はされるのでしょうか。また、すでに目標値を達成している場合についても再設定についてのご意見をいただいております。

こちらにつきましては、ご指摘のとおり、前期基本計画で策定した成果指標の中には、計画期間中の社会情勢の変化や施策の進捗状況により、基準値・現状値と目標値の乖離が大きくなっているものや、すでに目標値を上回っているものがございます。後期基本計画の策定に当たりましては、新たな目標年度となる令和14年度に向けた成果指標を設定して参りますが、その際、前期基本計画における基準値・現状値・目標値の達成状況を精査し、特に大きな乖離がある場合や目標値をすでに達成しているところについては、現状の分析や課題整理を行った上で、目標値を適切に設定して参ります。

●NO. 4 (資料2:23ページ)

「成果指標」についてのご意見でございます。目標値を設定する上での考え方として、「現実的な目標値として設定」「達成ハードルが高い目標値として設定」「必ず到達する必要があるものとして設定」といった考え方があり得ますが、現状の目標値はどのような考え方で置かれていますでしょうか、というご意見をいただいております。

こちらにつきましては、前期基本計画の策定にあたって設定した成果指標は、いずれも客観的に測定可能で、事業の成果との因果関係が明確なものを選定し、その目標値は、現状の実績を踏まえまして「現実的な目標値」として設定したところがございます。

後期基本計画の策定においても、国の総合戦略や他自治体の事例を参考にしつつ、最新の達成状況を踏まえて目標値を見直し、実効性の高い成果指標を設定して参ります。配布資料の説明は以上でございます。

(会長)

はい、ありがとうございます。

それでは、今回答ございましたけれども、追加で何かご質問・ご意見等ございますか。

(委員)

コメントありがとうございます。今回初めてなので、今いただいた、例えばご提案で色分けとか矢印で明確にさせていただけるということは良いかなと思っています。

私、これ見比べたときに、なぜこういうことを書いたかというところで、例えば「重点プロジェクト1」で重点施策①「危機管理体制・防火対策の強化」とありま

すが、これは「目標3 安全」になりますと。それぞれずっと、目標3・目標4、それから重点2だと目標2の子育て・教育、重点3だと目標4の都市基盤、産業という形でなるんですけど、それを追っていかないとわからない、ということでコメントをさせていただきました。

(会長)

はい、ありがとうございました。

(委員)

私の方で目標設定の考え方については、現状のところで把握いたしました。

1点追加でコメントさせていただくと、できれば目標値については、現状を踏まえた上でもいいんですけども、「この目標が達成できると、例えば行政施策としてよりやりやすくなる」とか、「市民の生活がより満足度が高くなる」といった考え方を踏まえた目標設定にさせていただくと良いかなというふうに考えております。

(会長)

はい、ありがとうございます。事務局、よろしゅうございますね。

それでは、その他、委員の皆様方でご質問・ご意見等ございましたら承りたいと思いますが、いかがでございましょうか。策定方針、よろしゅうございますか。

(会長)

では、何も無いのはちょっと寂しいので、私の方から実質2点ございます。

まず1点目は、21ページについてです。

ここで「前期基本計画の評価」が示されていますが、この評価結果を受けて、後期基本計画にどのようにつなげていくのか、一貫性を持ったアプローチをとることが重要だと考えています。

今回の後期基本計画は、12年間の基本構想を受けた位置付けであり、大きな方向性としては変わらない。しかし、その中で前期の取組については、きちんと着実に結果を見届けていく、というスタンスをとらなければなりません。

その際、現状の状態指標の話と、成果指標のところで、「概ね半分くらいの状態指標として成果が上がっている」と、それから「現在進行形のものがある」という説明がありましたが、「重点プロジェクト」について、それぞれがどのように取り組まれ、その結果として何が成果として分かったのか、この表を見た後に、何が見えてきたのかという点について、もう少し整理した「まとめ」を追加していただきたいと考えています。

そのうえで、そのまとめの中で、さらに後期基本計画の中で重点プロジェクトとして、その意味合いをより深めていくためには、どのような指標に着目しながら前に進めていくべきか、という点を示していただきたい。

また、基本構想12年の期間の中で動いていても、社会的な外部環境はどんどん変化していきます。そうした中で、現在の三つの重点プロジェクトだけでよいのかどうか。次の基本構想の改定を見据えたイメージの中で、後期基本計画の段階において「新たな重点プロジェクトを一つ追加していく」という方向性があるのかどうか、こうした「柱」のような考え方を、この前期基本計画の評価の中で、少し要

点としてまとめていただけると、第2章に示されている「後期基本計画の策定方針」と、より有機的に結び付いてくるのではないかと感じています。

すなわち、「どこに向き合って、今回の立ち位置をどう定めて前に進んでいくのか」という点が、より分かりやすくなると思いますので、そのあたりの取りまとめをお願いできればありがたいと思います。

もう1点ですが、先ほど、成果指標などについてご質問があったところですが、「他の自治体に比べると多いな」というのが率直な感想です。

例えば、状態指標の中でも「東京湾の水質」というキーワードがあります。鎌ヶ谷市として、東京湾の水質改善を図ることは、排水の問題という意味で非常に大事なことではあります。しかし、流域から考えると、船橋市を經由して河川放流の方向性から行くと、「鎌ヶ谷市の取組だけ」が東京湾の水質状態に直接的な因果関係を持っているわけではない、という評価もできると思います。

そういったものの状態指標が上がっているとして、その数字をどのように「市の評価」に使うのか、そのイメージが、私自身にはあまり湧いてこないというところがあります。例えば「鎌ヶ谷処理場の排出濃度」といった指標であれば分かりやすいのですが。おそらく、前回、指標を設定された際には、かなり苦労されて、「現状評価を行うために、各分野でどのような指標値を設定するか」「各課で何とか指標を挙げてほしい」といったアプローチをとられたのだらうと思うのですが、今回、前期基本計画が終了した時点で、この評価を踏まえて後期基本計画にも同じ指標を継続していく妥当性があるのか、先ほど出ていた、「鎌ヶ谷市のどのような目標の暮らし」市民生活を直接評価するような成果指標に繋がっていくようなものについても、本当に鎌ヶ谷市にとって必要な指標なのかどうかを、事務局にとって負担は大きいかもしれませんが、項目数も含めて一度確認していただき、妥当性を近づけるような、縮小する型の取組を進めても良いのかなと思います。

これは、あくまで私個人の意見ですので、「これは鎌ヶ谷市にとって大事な指標だ」と位置付けるのであれば、その旨を政策論として転換できるような、位置付けを、今後、必要になってくると考えますので、ぜひご検討いただければと思います。

(会長)

以上、私の方から2点、お話をさせていただきました。委員の皆様方、他によろしゅうございますか。

(委員)

例えば4ページの策定方針の中で、「多様な主体の参画」ということで、いろいろ意見収集を行うにあたってはデジタルツールを積極的に活用しますよ、といったお話を書いてあります。

30ページにも同様のことが書いてありまして、市民参画を促すためということだと思いますけど、一番上の2～4行目にも「積極的にデジタルツールを活用します」といったことが書かれていて、それ自体は若年層の皆さんですとか、あるいは働く世代の住民の方々の方々の参加を促進するという意味で有効だと思いますので、積極

的な活用を期待するところなんです。

一方で、例えば高齢者の方ですとか、障害のある方ですとか、デジタルツールを使い慣れていなかったり、あるいは使うことが困難な市民の方もいらっしゃると思います。そういった市民の方の声も反映されるような配慮が重要だと感じました。

(会長)

ありがとうございます。事務局、何かございますか。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

こちら、「デジタルツールを活用して」ということで意見収集・多様な主体の参画、例えばアンケートの実施でありましたり、グループヒアリングにおける事前の意見であったり、事業者の方に対する通知であったり、そういったところをデジタルの力を活用して行っているというところがございます。

ただ、なかなかこの意見集約の中でも、デジタルというよりも、やはり「やり慣れた手段」といいますか、そういったものがございましたら、そちらの要望に沿いながら対応させていただいております。

これは意見集約に限らず、今後のデジタル化、こちらは鎌ヶ谷市のみならず推進していく形になろうかと思えますけれども、「誰一人取り残さない」という視点は欠かせないものだと思っております。

選択肢としてデジタルを設けつつ、一方で、デジタルデバインド解消に向けた取組や配慮、そういったものもしっかり意識しながら進めていきたいと考えております。ありがとうございます。

(会長)

はい、ありがとうございます。よろしゅうございますね。

そのほか、いかがでございましょうか。よろしゅうございますかね。

はい。それでは、こちらの方針に基づきまして前に進めていただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

エ 鎌ヶ谷市総合基本計画後期基本計画基礎調査報告書に係る意見について

(会長)

それでは続きまして、議題もう1点でございます。「鎌ヶ谷市総合基本計画後期基本計画 基礎調査報告書に係る意見」につきまして、事務局よりご説明お願いいたします。

(事務局)

「鎌ヶ谷市総合基本計画後期基本計画基礎調査報告書に係る意見について」ご説明いたします。資料は、資料3、資料4、資料5の3点です。まず、資料3、鎌ヶ谷市総合基本計画後期基本計画基礎調査報告書をご覧ください。

2ページをご覧ください。はじめに、「1 本調査の目的」でございます。本調査は、後期基本計画の策定にあたり、社会経済動向、本市の現状・課題、将来推計などを整理し、計画の基礎資料とすることを目的として作成したものです。

続いて、「2 本調査の全体像」でございます。下の図表のとおり、「第1章 社会経済動向の把握・分析」「第2章 鎌ヶ谷市の現状と特性」「第3章 各分野における現状・課題」「第4章 将来フレームに係る推計」の4章構成としております。

4ページをご覧ください。第1章では、鎌ヶ谷市取り巻く社会経済動向を整理しております。

8ページをご覧ください。第2章では、鎌ヶ谷市の現状と特性についてまとめております。9ページに記載のとおり、他市との比較にあたっては、11市を対象に比較しています。

10ページをご覧ください。鎌ヶ谷市はベッドタウンとしての性格が強く、昼夜間人口比率が低く、市内で働く方の割合が低いことが特徴です。その結果として、11ページに記載のとおり、地域経済循環率が低く、本市に事業所が少ないこと、固定資産税や法人市民税が極めて少ないことにつながっており、本市の財政構造が脆弱である要因となっています。12ページをご覧ください。このような構造的な課題を克服するため、北千葉道路の整備を契機とした戦略的な土地利用が、今後の重要なカギとなります。

続いて、24ページをご覧ください。第3章では、各分野における現状と課題を整理しております。24ページと25ページは、分野全体に関する評価を記載しております。前期基本計画期間中は、新型コロナウイルス感染症による世界的なパンデミックと重なり、市の行政運営も大きな影響を受けました。特に、「人の移動」や「物理的な接触」が制限された政策分野において、強く影響があらわれました。

資料26ページから資料94ページまでは、政策分野について整理したもので、前期基本計画の達成状況、他市比較、市民意識、そして今後の取組の方向性を、それぞれの政策分野ごとに整理しております。

96ページをご覧ください。第4章は、将来フレームに係る推計です。96ページには、本市の将来人口推計を示しております。令和7年4月1日現在の住民基本台帳を基準として推計したもので、将来的には減少傾向となります。なお、前期基本計画の策定時点の人口推計と比較すると、令和17年（2035年）では、約4千人多い結果となっています。これは、前期基本計画を策定した令和2年当時の推計よりも、市外から鎌ヶ谷市への転入が多かったことを示しています。

続きまして、104ページをご覧ください。「財政の状況及び推計」です。

「(1) 基本的な考え方」でございます。本市の将来的な財政状況は、少子高齢化の進展に伴う社会保障費の増加、人口減少に伴う生産年齢人口の減少と市税の減少、公共施設の老朽化に伴う大規模改修費の増加などにより、長期的な視点から厳しい状況が見込まれます。財源に限りがあるなかで、後期基本計画策定にあたりましても、最新の財政推計を踏まえて、策定するものとしております。

105ページ(3)をご覧ください。本市の中期財政見通しでは、従来以上の歳入確保・歳出削減の取組を行わなかった場合、令和13年度までに、約39億2千万円の財源の確保が必要となる見込みです。

続きまして、資料5をご覧ください。基礎調査報告書（別冊）中間報告書をご覧ください。今回の調査では、アンケート等を通じて多くのご意見をいただきました。

なお、令和7年度に実施するアンケート等は12月まで継続実施中であり、本中間報告書では既に実施分のみを反映しています。残りの調査結果については、令和7年12月に完了する見込みでございますので、その結果を取りまとめ、こちらの中間報告書を、「基礎調査報告書（別冊）令和7年度市民参加最終報告書」として取りまとめ、後期基本計画の策定に活用するものです。

説明は以上となります。

（会長）

はい、どうもありがとうございました。

それでは先ほどの議題と同じように、事前にご意見等いただいている点がございますので、資料4につきまして、事務局より一つずつご説明いただければと思います。よろしく申し上げます。

（事務局）

では、お手元に当日配布資料④をお願いいたします。

こちらは資料3「基礎調査報告書」に関するご意見でございます。

●NO. 1（資料3：11ページ）

「（3）財政構造への影響と将来の展望について」のご意見でございます。

ベッドタウン化している戦後の鎌ヶ谷市の歴史上、日本の高度成長期が終わり、現在に至るまでの間、鎌ヶ谷市の収入構造は東京という大都市に労働を提供しているポジショニングであり、現在に至るまでに農業振興以上に鎌ヶ谷市の産業育成施策がとられてきたのか。近隣の白井市、印西市、松戸市、船橋市、柏市に比べて事業所は育っておらず、企業誘致との掛け声はある反面、市内企業の県内他市、他県への流出は現実であり、これまでに具体的な市内の産業育成のための土地の準備、産業育成策など、とれる策はあったはず。お金を生む地元企業をこれからも育成し、さらには県内他市、他県からも企業を誘致すべきであり、これまた時すでに遅しかもしれないが、新鎌ヶ谷駅の北西に広大に広がる遊休地を鎌ヶ谷市インテリジェントゾーンの、また神戸市のポートアイランドの様に活用し、企業の本社・支社機能の誘致に舵を振ってもよいのではないか。鎌ヶ谷市唯一の秀でている特性として、まだ未使用の広大な土地を有する新鎌ヶ谷駅を中心とした経済特区構想を進められないのか、とのご意見をいただいております。

こちらでございますが、委員のおっしゃるとおりでございます。本市は都心への通勤者を多く受け入れるベッドタウンとして発展してきたため、企業や工場が少なく、固定資産税や法人市民税が極めて少ないということに繋がっていることから、ご指摘のとおり鎌ヶ谷市の持続的な発展のため、雇用と税収を生み出す企業の育成・誘致が不可欠だと認識しております。これまで本市では、北海道日本ハムファイターズ、イオン鎌ヶ谷ショッピングセンター、アクロスモール新鎌ヶ谷をはじめ、医療機関やホテル、保育園など多様な事業所の進出が実現してきましたが、特

に2013年度に東京10号線延伸新線の計画が中止され、未利用地の活用が課題となって以降、本市は企業誘致を重要政策として位置付け、現在の芝田市長のもとでその方向性をより明確にしているところがございます。近年では、千葉県と連携した企業誘致の結果、新鎌ヶ谷駅南側で商業棟・マンションの建設が進み、交番裏にはコープ共済連の中核オフィス、イオン北側では京成電鉄による商業・業務施設の整備が進んでいるところですが、新鎌ヶ谷駅北西部の市街化調整区域についても、商業・業務機能の導入を視野に、土地利用の検討を進めているところがございます。令和8年度には、企業誘致を専門的に進める新しい部署を設置し、より戦略的に取り組んで参ります。

● NO. 2 (資料3:15ページ)

年齢5歳階級別純移動に係るご意見でございます。

このグラフでは折れ線グラフが用いられているが、棒グラフの方がわかりやすいのではないかとのご意見をいただいております。

こちらでございますが、ご指摘の年齢5歳階級別純移動の図は、2005から2010年、2010から2015年、2015から2020年の3期間を1枚のグラフに重ねて表しており、時期ごとの変化を比較しながら、年齢階級毎の特徴を読み取ることを目的としたグラフでございます。折れ線グラフは、データに時間的順序がある場合に適しており、複数の系列を同時に比較する際にわかりやすいグラフという特徴がございます。実際に本グラフで折れ線グラフを用いたことで、年齢が上がるにつれて純移動がどのように変化していくかを連続的に示すことができ、また純移動数を折れ線でつなぐことで、各期間の曲線が交差したり離れたりする様子が一目でわかります。以上のことから、今回のグラフは折れ線グラフを採用したものでございます。

● NO. 3 (資料3:51ページ)

「政策5環境 水道普及率」が挙げられているが、これは環境政策なのか。ライフラインの一つであり、環境問題とは違うのではないかと。政策6都市基盤の中で扱うべきではないかとのご意見をいただいております。

こちらでございますが、PFASによる水源汚染が社会問題となるなど、水道事業は環境汚染対策と密接に結びついていること、それに伴い、鎌ヶ谷市では県水道事業、上水道の布設と連携しながら環境問題として取り組んでいること。また、国においても、水道普及率は環境分野の重要な指標とされていることから、政策5「環境」の中で水道普及率を扱うことで、環境施策との整合をとりやすいと考えているところがございます。

● NO. 4 (資料3:57ページ)

空き家等対策に関するご意見でございます。

高齢化率も上昇傾向で、子世代はすでに住宅を取得している。そのような中、相続された土地建物は空き家として残っていく。なるべく早い段階での対応が必要で、空き家を早期譲渡・有効活用するよう相続人に後押しする必要がある。商工会やその他企業とも連携したうえで、空き家の有効活用ができればよいのではない

か、とのご意見をいただいております。

こちらでございますが、委員ご指摘のとおり、空き家等対策については本市でも課題であると考えており、早期の対応や利活用を促すことが重要と考えております。このため鎌ケ谷市では、空き家発生予防として啓発冊子の発行や、特措法改正を踏まえた空き家等活用促進区域の指定など、所有者が早期に行動しやすい環境づくりを進めているところでございます。また、相続空き家の利活用を後押しする仕組みとして、鎌ケ谷市空き家バンクを運用し、売却・賃貸希望者と利用希望者をつなぐ役割を担っております。また、宅建業協会市川支部、司法書士会、建築士会鎌ケ谷支部等と協定を締結し、売買・賃貸・改修・相続等に関する初回無料相談を実施するほか、啓発冊子の発行や相続登記促進事業も実施しております。加えて、市内の空き店舗活用については、空き店舗活用補助金を交付し、商工会や金融機関、不動産事業者団体と連携しながら、制度の周知と活用促進に取り組んでいるところでございます。今後も関係団体と連携をしながら、空き家・空き店舗の有効活用に向けた支援を進めて参りたいと考えております。

● NO. 5 (資料3：75ページ)

「生涯学習・文化・スポーツ」。日ハムが抜けた後についてはいろいろあるとは思いますが、鎌ケ谷市に相撲部屋があることをお忘れなく、とのご意見をいただいております。

こちらでございますが、鎌ケ谷市では地域にゆかりのある多様なスポーツチームを、市のスポーツ振興を支える大切なパートナーとして位置づけ、連携を図っております。市内で活動するKAMAGAYA SCや鎌ケ谷GATORSをはじめ、近隣地域を本拠地とするNECグリーンロケッツ東葛や柏レイソルについても、イベント等を通じて協力関係を深めているところでございます。その中でも朝日山部屋については、保育園や児童センターにおいて子ども相撲体験などの取組に協力いただいております。その取組については、市ホームページや市広報紙で紹介しております。

● NO. 6 (資料3：117ページ)

グラフと本文の数値が異なる。どちらが正しいのか、とのご意見をいただいております。

こちらでございますが、本文中の記載が正しく、グラフの数字が誤りとなります。確認したところ、本来は小学生アンケートのグラフを挿入すべきところ、高校生のグラフが誤って貼り付いていたため、数値が異なる状態となっておりました。いただいたご指摘は最終報告書に反映し、後期基本計画策定にあたり活用して参ります。

● NO. 7 (資料3：122ページ)

高校生アンケートは、鎌ケ谷市内在住者を対象にすべきではないか、とのご意見をいただいております。

こちらでございますが、ご指摘のとおり、今回の高校生アンケートでは市内居住者と市外居住者が混在しており、小学生・中学生アンケートとの比較に連続性がな

く、結果の解釈が難しい状況でございます。特に「どこに住みたいのか」といった設問では、市外在住者が多ければ市外志向の回答が増える可能性があることから、市内外別に集計し、市内居住者のみを分析対象とする等の工夫が必要でございます。今回いただいたご意見は最終報告書に反映し、対象者や集計方法を見直すことで、小・中・高のデータを連続して比較できるよう改善して参ります。

説明は以上です。

(会長)

はい、どうもありがとうございました。追加で何かご意見とかご質問ございますでしょうか。

(委員)

ご回答ありがとうございました。財政が厳しいと、先ほど市長がおっしゃっていたとおりで、そしたら、お金を稼げばいいのかな、という部分でございます。やはり、このアンケートにもありますように働き口が少ないとか、いろいろなことがあると思います。でも、これまでは東京に稼ぎに行くことしか考えていなかった。私もそうでした。

やはり、「ここ（鎌ヶ谷）で商売を始める」「ここで事業を始める」ということは、職住接近が可能になります。当然、今は東京に働きに行くことだけが、将来自分の生活で良いことかという、年功序列制もありませんし、やはり地域で働いて、環境の良いところで暮らせればな、というところですよ。

白井市ですとか印西市と比べまして、結構売上も仕事も全部取られて持っていかれているという部分があります。ただし、新鎌ヶ谷は本当に宝物なんですよ。この駅を使って、まだまだ土地はありますし、本当にインテリジェントでお金を稼げるような形で、ただ単に配送センターですとか工場だけを持ってくるのではなくて、「支社」「千葉東支社」「東関東支社」など、いろんな形で法人市民税をしっかりと取れるような形で。日ハムさんが鎌ヶ谷から行かれますよね、北の方に。新京成さんが京成さんになりましたし、本社さんは本八幡になってしまいます。そういったところがあります。そこをしっかりと踏まえた形で、どうやってお金を集めるかということ、しっかりと考えていく必要があると思います。

鎌ヶ谷市は農業中心ではありましたが、今は住民の数は圧倒的に商工業の方が多いわけで、その人たちに頑張ってもらえれば良いなと思います。

現象的には、市内の企業さん、私市さんですとか、茂野さん、東葛さん、NIPPONさんなどがあるんですけど、全部鎌ヶ谷では手狭になって、他の市町村や県外で生産されている。これは鎌ヶ谷のお金がどこかに流れていってしまうということでもあります。しっかりと既存の企業をサポートできて、まず土地がなかなか用途規制の部分で確保できなかつたり、そういったところを拡充していく。そして、他府県から企業をお呼びすることも重要ですし、「お金を稼いで、稼いだお金で市民生活を向上させる」というのが原則中の原則だと思います。商工会といたしましても、元気のある商工会でなければ、「鎌ヶ谷に来てもつまらないんじゃないかな」と思うんです。そういったところで「面白い鎌ヶ谷」をしっかりとやっていければ

など。

商工振興課さんが今「商工観光課」さんになりまして、観光協会というものはなかったんですけども、この辺も随分ご考慮いただいて、鎌ヶ谷市の観光ということもやられています。商工会も連携しながら、鎌ヶ谷の良いところをどんどんアピールしていけたらと思っております。

(会長)

はい、どうもありがとうございます。

それでは続きまして、4番のところですね。先ほど事務局からのご回答がございましたが、何か追加でのご質問とかご意見ございますか。

(委員)

私が抱えている案件というのは、やはり良い案件は空き家にはならないんですよ。どうしても不動産屋さんがすぐ売りにいらっしゃる。道路についていないとか、建て替えがきかないとか、そういった物件が空き家となって残っていくのがとても多いです。なので、相談員もみんなどうしたらいいのかということで、「もうそのままの状態でもいいから」と言って買ってくださいの方を探されたりとか、そういう形でやっております。所有者さんがお金はかけたくない、ということで諦めざるを得ないとなると、そのまままた空き家が残ってしまう、というような状況の繰り返しです。でも、いくつか成約になって、いくつか解決をさせてきていただいているので、もっともっと力を入れてやっていかなくはいけないなどは思っております。

(会長)

はい。それではご協力も含めてという形で、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは6番・7番、何か追加でご意見・ご質問ございますか。

(委員)

ご回答ありがとうございました。6番については特にございません。

7番の高校生のアンケートですけれども、有効回答数が少ないというところで、対象が1, 423に対して249のご回答で、市外と市内を分けますということなので、さらに母数が減ってしまうはずですよ。多分、県立高校にアンケートを取っていて、「取りやすいから」だと思んですけど、ちょっと違って、市内の高校生を取るような形がもしできるのであれば、そうしていただいた方がいいかなと思ってコメントさせていただきました。以上です。

(会長)

それでは事務局、今3人の委員の方からコメントがございましたが、特に何か事務局としてご回答すべきことはございますか。

(事務局)

大丈夫でございます。

(会長)

はい。それでは今の意見を受けまして、逐次対応を進めていただけますようお願いいたします。それでは、これからは各委員の皆様方、その他お気づきの点ござい

ましたら、ご意見・ご質問等を承りたいと思いますが、いかがでございましょうか。

(委員)

今回の資料2の後期基本計画の策定方針と、資料3の今回の基礎調査報告というのは、どこまで繋がりがあがるものなんでしょうか。例えば、資料3の調査報告書に書いてあることを踏まえて後期基本計画が作られるんだと思うんですけど、例えば、これは例ですが、地球温暖化というトピックと、物価高とか地域経済といったトピックでは、市民の方の関心は、どうしても物価高とか地場産業のようなことの方が高くなる。今回も、市民調査の「関心度」とかを挙げていただいているんですけど、その「関心度」が後期基本計画において力を入れる「重要度」のようなものに割り振られると、結果として、市民の方の関心度も大事なんですけど、関心が低い中でも多分重要な施策があるんだと思います。

特に環境系は、「循環型社会の形成」というのが市民の関心が低くて、となっている時に、どの程度、今回の調査報告の結果を踏まえられるという想定をされているんでしょうか。

(会長)

はい、事務局いかがでございましょうか。

(事務局)

はい、ご意見ありがとうございます。

今後についてなんですけれども、こちら今お話しいただいたとおり、資料3は「基礎調査報告書」ということで、今日いらっしゃる策定支援業者のお力も借りまして、現状分析として基礎調査報告書をまとめたところでございます。

様々、市民参画ということで、グループヒアリングなり、各種アンケートなりでご意見をいただいております。そちらを「そのまま踏襲する」というわけではなく、今後、いただいたご意見を踏まえた中で、それぞれの専門部会の方を立ち上げまして、そちらの部会の中で、しっかりと重点プロジェクトについても審議をしていくことを考えております。

決して、「関心が低いからやらない」というわけではなく、行政として大事な役割を担う分野も、もちろんございます。そういった視点も入れながら、ただ、ご意見いただいた内容なども参考にしながら、重点プロジェクトの検討を進めていきたいと考えております。

現行の重点プロジェクトにつきましては、地方版総合戦略を包含するというところで、地方創生、すなわち東京への人口一極集中の是正、地域の活性化・地方創生といった視点で重点プロジェクトを組んでいるところでございます。

今後につきましては、例えばこの基礎調査報告書の中でも、また井手委員のお話の中でも出て参りましたけれども、今後、鎌ヶ谷で行政サービスを拡充していくために、子育て支援、教育、産業、文化など様々な政策を行っていくにあたって、やはりお金が必要であるという点がございます。

そういった企業誘致を推進していく点は、市長も強く推し進められていますの

で、そういった視点なども踏まえながら、今後重点プロジェクトの議論を進めていければと考えております。基礎調査報告書は、その現状分析を踏まえて「こういった課題があるのか」を整理した基礎資料であり、これを踏まえながら、しっかりと今後議論をしていきたいと考えております。ありがとうございます。

(会長)

いかがでございますか。よろしゅうございますか。

今ご指摘のように、環境政策というと、カーボンニュートラルは目標が2050年といった数字が出ておりますし、SDGSでいうと2030年という目標が出ております。そういった面では、この後期基本計画、これからの5年といったところに「答え」を出さないといけないよね、といった目標設定と、もう一つ、日本全体、その中で鎌ヶ谷がどういう位置付けの中で、その目標達成へ向けて進めていくのかという「時間軸の違い」が、それぞれの施策展開の中にどうしても出てきます。

そこで具体的に、後期基本計画に盛り込むべき重点プロジェクトは、こういう施策に最終的に落としどころを持っていく。ただし、環境政策的な、あるいは人口減少、鎌ヶ谷の場合には非常に少ないようでございますけども、将来的な鎌ヶ谷の方向性がどちらを向いていくかといった、新たなベクトルのようなものを一つ位置付けていく必要性。こういったところも視野に入れながら、重点プロジェクトを書き込んでいく、というアプローチをとられると思います。

単に市民の声が上がっているからといって、先ほど事務局から、行政側として付記しなければいけないこと、という思いもきちんと入れ込みながら、施策のメニューを揃えていきたい、というお話でございましたので、そこをまた皆さんに見ていただきながら、「まだまだ時間軸から見たら、自分たちの専門分野とするところだと、ちょっとここは物足りないよねとか、あるいはここは書きすぎ」といったところが出て参りましたら、その都度ご指摘いただければと思います。よろしく願いいたします。

(委員)

私は東京の下町に生まれて25まで過ごして、どこに住もうかなというのでいろんなところを候補に挙げて、東京の下町の家を売って、鎌ヶ谷に引っ越してきたんです。それから年明けて50年。いろんなところで「鎌ヶ谷に何でいるんですか」と言われて書いて、ご存じの方もいるんですけど、私はいいところだと思うんですよ。例えば春夏秋冬。今になると、スイセンがでてきて、つわぶきの花が咲いた。みかんの実がなった、「何気ないこと」が、こういうところにはなかなか現れにくいんですよ。例えば公園一つ。先ほど公園が出ましたけど、「公園の数と面積」がでございます。じゃあ一体それがどういう公園か。

例えば埼玉県某市なんかね、最低のランクになっちゃったようですが、某市でとつてもね、工場の跡地にマンション作って公園作って見かけはいいんです、絵は良いんです。桃の木を全面的に植えたんです。3年経ちました。どうなったか。犬を散歩する人の話聞くと、とんでもないって言うんですよ。今ボタボタ落ちて

汚くて犬がみんなそれを食べる。

つまり、絵として綺麗でやっても、じゃあその時なんでそこ桃の木を全部植えたところって知らないんだけど、鎌ヶ谷の公園を見ると、この3月、私は朝晩歩いているんですが、派手な公園はない。だけど、ぽつぽつと小さい公園がある。ポケットパークって重要なんですよね。それと、歩いた人はお分かりかもしれませんが、丸山二丁目公園とか、ああいう公園は、もともとあった木を生かしています。全部切って切れないじゃなくて、あって一つ一つこれを残すでやって整備している。とってもね僕はこれ自慢できる。だから、そういう「できること」をね、このやる時には、やっぱり夢がないといけないし、「できることをできる人ができるときにやる」。それと、できればいいな、その辺のことをやることと、やっぱり市民がね、アンケートって、とらえ方。どんなに良いものを作っても、皆さんもそうだと思うけど、どういう質問かによって答え方が違う。答えたものが本当に動くか。「これいいですよ、いいですね」って、作っても売れるとは限らないですよ。

その辺のことを、行政でしっかりやっていて、僕は頑張っていると思うんですよ。とってもいいところに住んでいるなど、今思っています。

例えば、小さいことですけど、資料2の第6章、31ページですね。「7 私の好きな鎌ヶ谷絵画写真展の実施」と書いてある。とってもいいことだと思うんですよ。ところが、商工観光課では、「千葉・鎌ヶ谷高校生フォトコンテスト」というのも10数年やっている。日本でどこにもないですよ。高校生の目を見た鎌ヶ谷と千葉の、そして市町村の風景を撮るコンテスト。最終的に1月に審査をやっている。市のいろいろなところも関係しているんですが、むしろ商工会さんにもそういうところに絡んでいただいて、もう十数年。つまり、高校生の目を見た鎌ヶ谷。

だから、そういうものもこういうところにね、せっかくなので書いていただいて。市内でいろいろやっていることの細かいところにも目を向けていただいて、「住んでいる人が、5年後・30年後」、どうなるかは分かりません。そこは今できることをやって、5年後「こういうのがあったけど、住んでみて良かったね」というものになるように、ぜひ頑張っていたいただければと思います。

(会長)

期待を込めてといったところでございますね。はい、ありがとうございます。

そのほか、いかがでございましょうか。

(委員)

21ページの北海道日本ハムファイターズ及び北広島市さんとの連携というところで、あえて書かれているのであろうというふうに感じます。あえてこれね、取っちゃいますと、大人気ないっていう話になっちゃいますから、そういったいろんな意味合いで書き続けられてるんですけど事実問題、じゃ北広島市さんとどういう連携するんですかとか。

この前調査隊がこられまして。近くの恵庭市さんだとか、江別市さんから商工会の方に、鎌ヶ谷市さんがファイターズのある町でどういう活動をしてきましたかということ聞きにこられました。

私も大人気ないんでウエルカムさせていただいて、お食事も出してですね、帰りいただいてから鎌ヶ谷市はこういう努力してきましたよ。日ハムさん、なかなか相手厳しいですよとかいろんな話を、冗談込めてやってたんですけども。

で、ここであえて大人気なくこれを削除ではなくて、さらに、鎌ヶ谷SCですか、そういったいろいろな市民が参加型でできる、そういうチームを応援するとかですね。当然、日本ハムファイターズさんは、いろいろな大谷さんですがそういった人を全世界に送り出すという企業であり、どちらかと市民参加型ではなくって、ロッテさんがありましたから、営業活動も何もできなかったんですね千葉県には。一つしか認められないっていうのがあって、我々も幾ら応援しても、要はブランド使用料を払いなさいとかいろんな制約がありましてですね、なかなかできなかったのが事実でございます。

それではってということで、この部分を削除するのではなくって、重点プロジェクト3というところですね、さらにスポーツ振興ですとか、市民が全体で応援できるサッカーチームですとか、そういうバスケットチームですとか、いろんなものをですね今後のやっぱり市民参加型で一つになって応援できるような市民の結束を図れるような部分をぜひ加味していただければなというふうに考えておりますのでよろしく願いいたします。

(会長)

後期基本計画に位置づける重点プログラムといった中で、ぜひご検討をといたところでございますので、事務局意見として受けとめていただければと思います。

はい。そのほかいかがでございますでしょうか。

よろしゅうございますか。

(会長)

それではですね、かなり丁寧に、この現状分析といいますかアンケート調査等を含めてしていただいております。特に他市との比較といったところで、私もこれ初めて見させていただいて、鎌ヶ谷がこういう状況だったのかってというのが、もう一目でわかるという、こういった資料がなかなか面白いですね。だからこそ弱みと強みが見えてくる。次のプログラムの中で、その強みをどう発揮するか、弱みを底上げするのかという、その辺の選択の可否ですね。そこがかなり事務局としてのこれからの方向性を左右していくのかなと思います。ただいまいただいたような意見も踏まえましてぜひ継続的に資料準備を進めていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

オ その他

(藤井会長)

それでは、「その他」に入らせていただきます。

その他は、先ほど冒頭、議事に入ります前にお話をさせていただきましたとおり、今回初めて委員として皆様方にご参集いただいております。それぞれの分野、また日頃お考えになっていることが多々あるかと思っておりますので、委員の皆様方お一

人おひとりから、お考えや思いをお聞かせいただければと思います。時間としては、お一人あたり2～3分程度になってしまうかと思いますが、事務局の次なる計画の中で、「この部分がちょっと不足していたな」という気づきにもつながるかと思いますが、よろしく願いいたします。

(委員)

今日、ご意見とご回答を聞いていて思ったのが、先ほど「企業を誘致する」「専門的に進める部署を新しく作る」というお話も聞いたんですけど、企業を誘致するにあたって、「どういうところに来て欲しいか」を考えなきゃいけない。

道がすごく混んでいるところに企業って来るのかなとか。そうなってくると、道を一この渋滞問題を解消していかなきゃいけないよねとか。いろんな問題がいろんな方向で関係しているんだなと思いました。

なので、新しい部署も、「企業を呼んでくること」ばかりではなく、「呼ぶために何が必要かな」「こういうのも必要だな」「こういうのが必要で、進めていくためにはこの部署と連携していかなきゃいけないな」と、いろんな問題が出てくるのかなと思います。

鎌ヶ谷の良いところというのは、やっぱり船橋と比べて「コンパクト」なところ。船橋だと問題解決するのにめっちゃめっちゃ時間がかかるかもしれないけど、鎌ヶ谷だったらもう少しスピードよく解決できることもあるんじゃないかなと思います。

白井だったり松戸だったり、周りに大きな市がたくさんあるんですけど、比べることも大事だけど、「真似をする」「白井のようになれ」「船橋のようになれ」「松戸のようになれ」と言っているわけではなくて、鎌ヶ谷の良いところを生かしていける、鎌ヶ谷らしい政策が取れたらいいのかなと思います。

あと、一つすごくびっくりしたのが、中学生と高校生のアンケート結果です。小学生は「10年後どのようなまちになればいいですか」という意見が、すごく子どもらしいなと思ったんですけど、自転車通学をしている中学生・高校生が「どんなまちになればいいと思うの?」という質問への一番多い回答が、「道や公園が整い、住みやすい町」というのがすごくびっくりで。

多分、子どもたちも困っていることがあるんだな、と思います。それが解消できるといいかなと思います。今日はありがとうございました。

(会長)

はい。ありがとうございました。続きまして、お願いいたします。

(委員)

先ほど言いたいことは言いましたので1点だけ。

やはり、よく話題になるのは人口のことです。人口を見ると、だんだん減ってくる。「やっぱり増えたほうがいい」、これは二つあると思います。一つは外から来ていただくこと。もう一つは、今住んでいる人がずっと住み続けるかどうか、そしてそこで生まれた人がどうなるか。

一つ事例を申し上げますと、私には一人娘がおりまして、大学生になると当然の

ように家を出て、都内に住んだり他県に行ったりしました。ところが最近、柴犬を買うようになったら、我が家に来る日数が増えて、1年の半分以上を我が家で暮らすようになりました。その中で、「鎌ヶ谷はいいところだな」と言うようになり、「将来はここに住むつもりだ」と。これは小さいことかもしれませんが、私はとても良いことだと思っています。

「住んでいる人が鎌ヶ谷っていいところなんだな」と思えるような、ぜひそういう方向でのまちづくりを進めていただきたい。他市を真似する必要はありませんので、お願いしたいと思います。

(会長)

はい、それでは続きまして、お願いいたします。

(委員)

はい。私は先ほどからも申し上げているとおり、不動産業をやっておりますので、不動産の関係からお話させていただきます。

鎌ヶ谷市は、松戸、市川、柏、津田沼に囲まれているような位置関係ですよね。船橋駅を利用したい方などが、船橋駅から徒歩15分くらいの場所でも賃料がどうしても高くなってしまいます。その一方で、鎌ヶ谷は賃料が少し安いので、「船橋から10分もあれば鎌ヶ谷に来られる。こんなに安い家賃」ということで、船橋から鎌ヶ谷で物件を探されるお客様が多いです。

ただ、やはり皆さんおっしゃるとおり、道が狭い、鎌ヶ谷市内を車で動くときに、車がないと不便、車があればあったで渋滞する場所が多々ある、といったご意見をよく伺います。私としても、鎌ヶ谷市内の道路の幅や、交通の便について、もう少し改善されると良いのではないかと感じています。なかなか難しいことだとは思いますが、これが改善されれば、もっともっと住みやすいまちになるのではないかと思います。

(会長)

はい、ありがとうございます。

それでは、お願いいたします。

(委員)

資料の話になってしまうのですが、資料3の110ページをご覧いただきたいと思います。先ほども少し話題に出たかもしれませんが、「景観」に関する質問の中で、満足度が一番低いのが「ウ 駅前や商店街の景観」です。これについて、不満・やや不満を合計すると44.1%の方が不満に感じているという結果になっています。一方で、同じページの下にある「今後の重要度」のグラフを見ますと、一番重要度が高いのも「ウ 駅前や商店街の景観」で、合計すると76.9%となっており、最も高い重要度になっています。この「ギャップ」が、市民の満足度や市への愛着に大きく影響していく可能性があると感じています。ですので、例えば駅前の景観の改善というのは、心理的な意味で、市全体の評価を向上させる重要な鍵になるのではないかと感じています。

先ほど、企業誘致や新鎌ヶ谷駅の活性化といったお話がございました。

そうした取組は、経済の活性化や職住接近の実現という面でも大きな効果があると思います。それに加えて、市民の満足度という観点から見ても、「市民の期待はそこにある」と考えてよいのではないかと思います。

アンケートですので、いろいろな見方ができるとは思いますが、行政としてやらなければならない色んな政策があると思うんですけど、間違いなくといってよいのかわかりませんが、「新鎌ヶ谷駅周辺の活性化」は、市民の皆さんのためになる施策と思っておりますので、ぜひ、進めていただきたいと期待を込めて申し上げます。

(会長)

はい、ありがとうございます。続きまして、お願いいたします。

(委員)

はい。私も資料について1点お話しさせていただきます。資料3の45ページ、「政策4安全」のところです。

他市との比較が載っている指標の中で、自主防災組織カバー率は鎌ヶ谷市は93%と比較対象市の平均に比べて高い数字になっております。一方で、自主防災組織率の方は、令和元年の51%から令和6年には45%へと低下している、という結果が出ています。

自主防災組織というのは、防災において極めて重要な役割を果たしていると思います。他市も同様の課題を抱えているのかもしれませんが、自主防災組織率が落ちているという点について、少し不安を感じています。

これから、この部分についてどう取り組んでいくのかという視点が必要ではないかと考えているところです。

(会長)

はい、ありがとうございます。

それでは続きまして、お願いいたします。

(委員)

いろいろなことを踏まえて、今回の資料を見させていただいて感じたことをお話しします。私自身は鎌ヶ谷駅のほうに住んでいるのですが、鎌ヶ谷駅から新鎌ヶ谷駅に移動する手段について、日頃から強く問題意識を持っています。自転車だと10分くらい、電車だと2分。しかし自動車だと、土日には30分から1時間かかることもあります。

この状況を解消しない限り、いろいろな企業の方を呼んだとしても難しいのではないかと、ということ強く感じています。

今度、北千葉道路ができるということですが、正直申し上げますと、現在、東武野田線が高架で通っている状況を見ても、とても地域分断されていると感じるんです。

新鎌ヶ谷駅の向こう側に北千葉道路が高架でできると想像すると、「この公園の向こう側に大きな構造物ができるのか」というのが、違和感を強く感じています。

また、子どもたちの通学路にも絶対に関わってくる問題です。今、うちの子ども

は、くぬぎ山の近くにある保育園に通っているのですが、その周辺は本当に農地がいっぱいあって、自然が豊かな地域です。そこに大きな構造物ができることについて、とても不安を感じています。

今回のこの場で、皆さんが北千葉道路のことをどう考えているのか、ここで話していいのかわかりませんが、考えていけたらいいんじゃないかなと思います。

(会長)

はい、ありがとうございます。それでは、どうぞ。

(委員)

私は、資料2と資料3を見比べながら、「この重点プロジェクトで何を後期にやっていくか」ということを照らし合わせて考えてみました。皆さんおっしゃっているように、やはり「道路」の話はなかなかできていない。財政の問題もあるので優先順位をつけなければいけないというのもあると思いますが、必要なところについては、北千葉道路だけでなく、やるべきではないかと考えています。

それに付随して、交通事故の発生件数であるとか、死傷者の数とかも下がっていきたくらうと思いますし、道路改良率も上がっていくのではないかと期待しています。

また、企業誘致のお話ありましたが、印西市や白井市はデータセンターや物流施設などが多い。流山もそうですが、鎌ヶ谷は、道路状況があまり良くありませんし、土地も十分ではない。「本社」を誘致するという事は、なかなか時間がかかるので、今ある市内企業さんに、例えば資金融資を優遇するとか、今ある企業を育てていく。

新鎌ヶ谷駅周辺で働いている人は、現状ではそれほど多くないかもしれませんが、例えば飲み屋さんなどに援助するなど、人が集まるようにしないとダメかなと。

私15年くらい前に鎌ヶ谷市に引っ越してきましたが、「鎌ヶ谷市ってどんなところ？」と聞かれても、あまり知られていない。

長く住んでいる方には申し訳ないのですが、「日本ハムファイターズの二軍の球場があります」と話すと、「ああ」と反応が返ってきますが、2030年に向けて北海道に移転されてしまうので、それを踏まえて、後期に入れられるかどうかはわかりませんが、観光もそうですし、スポーツも絡むので、入れていただければなと思ひ発言させていただきました。

(会長)

はい、ありがとうございます。

(委員)

教育と文化の二つの側面から発言させていただきます。

まず教育については、前期基本計画の振り返り部分を見ていると、かなりの部分が達成されていると感じました。後期の策定方針を見ますと、教育の部分では「アクティブ・ラーニングの視点を取り入れて授業を良くしていく」とあります。前期の段階でICT環境の整備などがかなり進んだことを前提として、こういった方針になっているのだらうと理解しています。その意味でいうと、アクティブ・ラーニ

ングを進めていくためには、教員の方に「余力」がないと実現できません。

去年から新しい教育長に代われ、鎌ヶ谷の内情をよくご存じの教育長のもとで、教員の待遇改善が図られているのではないかと感じています。そうした中で先生方に余裕が生まれてくると、アクティブ・ラーニングが本当に実践できるようになると期待しています。

この部分については、期待を込めつつ、前期同様、かなり達成度の高い分野として伸ばしていけるのではないかと考えています。

一方で文化の部分ですが、私自身は鎌ヶ谷市の外から見た人間として見ると、「文化や芸術に触れ合う機会」という意味では、鎌ヶ谷は実はかなり進んでいる、達成できている部分が多いと感じています。

しかし、観光も含めてなんですが、「コンテンツ」が非常に欠けている。「鎌ヶ谷といえば何か？」と問われたとき、ファイターズの話がまず出ますが、そのファイターズが今後は逃げてしまう、という状況の中で、「次に挙げられるのが鎌ヶ谷大仏くらいしかない」というのが現状ではないでしょうか。

観光入込客数を増やしていこうと考えたときに、他市では文化的なコンテンツを厚くしていくことによって、「このまちに来たい」という人を増やしていくことができているんだと思います。その意味で、鎌ヶ谷では「文化的なものの活用」が非常に弱いと感じています。

例えば、登録有形文化財の用地取得であるとか、佐津間城址などの用地取得など、既に市として貴重な財産を取得している部分もあります。

宝物はすでに持っているわけですから、その持っている資産をいかにうまく活用するか。しかも、予算が限られている中で、なるべく予算を抑えつつ、いかに上手く活用していくのかというところが、今後、工夫していかなければならない部分だと思っています。

そういう意味で、鎌ヶ谷市の持っている財産を活用というものを考えていければということで、注目していきたいなと思っています。

(委員)

はい、ありがとうございます。それでは、お願いいたします。

(委員)

今回、策定方針という段階で、少し気が早いかもしれませんが、総合計画の中に一つ要望がございます。総合計画の冊子の中に、「空いたスペース」にコラムを入れることになると思います。

私は小学校で出前講座をすることがあるのですが、小学生は皆、梨のことはよく知っています。そのときに、「鎌ヶ谷の梨は、例えばふるさと納税でも人気で」とか。私が見たときに、実際に、ふるさと納税サイト、たとえば「さとふる」などでも、鎌ヶ谷の梨が「売り切れ」になっていたことがありました。市外の方がふるさと納税するとき、「まちづくりに関する施策」「スポーツ」「地域振興」といった分野を指定すると、その納税額が、きちんとそういった施策に活用されているんです。

ただ、このまま温暖化が進んでいくと、鎌ヶ谷の名産品である梨の育生にも影響が出てきそうなんです、みたいな形で。総合計画自体は政策領域ごとに章立てで良いと思うのですが、コラムの中で、政策領域の関係がわかるコラムを作っていたらとよいのではないかと思います。たとえば梨であれば、農業政策であり、地域振興であり、環境政策であり、そしてふるさと納税という財政の話でもある。

総合計画は市の計画ではありますが、市民の方にもコラムを通じて、「市の行政の広がり」や「それぞれの分野の関係」があって、だからこそ、総合計画として次の6年間で市としてきちんと順序立ててやっていくんですよということが分かるような、中身のコンテンツがあると良いかなと考えております。

(会長)

はい、ありがとうございます。それではお願いいたします。

(委員)

私は、先ほどから皆さん企業誘致のお話をされていましたが、要望として「学校誘致」、主に大学の誘致について。ユニバーでなくても、カレッジでも構いません。大学誘致も一つの方法ではないかと考えています。

少し話が逸れてしまうかもしれませんが、私は子どもはいないのですが、教育委員会のほうからご指名をいただきまして。お子さんのいらっしゃる方は皆さんご存じだと思いますが、「先生の働き方改革」の一環でもあり、土日の部活動を外部委託するという話が、国から指針出ています。ただ、その具体的なやり方は各自治体に任されている状況です。

鎌ヶ谷市は、これまであまり進んでいなかったのですが、2年ほど前に会議体が立ち上がり、私がその会長を務めています。お隣の柏市はかなり進んでいると言われていましたが、実情としては、そうでもなさそうなんです。

そこで問題になってくるのが、先生の問題、指導者の問題です。待遇ですね。あとは兼業の問題など。そして一番大きいのは「箱」ですね。鎌ヶ谷にそれだけの施設をたくさん、市で用意するとなかなか。そうすると、中学校だとかの施設を使うしかない。

千葉県内、この近隣の自治体でも大学があるところでは、大学が「オープンに使っても良いよ」「卒業生を指導者に充ててよいよ」というところで進んでいる、浦安市のことなんですけど。

「人を呼ぶ」「そこに住んでいただく」ということを集める一つの手段として、学校というのもいいのかなという風に思っているんで、ぜひ、そこも一つ入れていただければなという風に思います。

(会長)

はい、ありがとうございます。

(委員)

皆様のご意見を伺っていて、これから鎌ヶ谷市の中で計画してやっていくことに対して、すごく楽しみであるなと感じました。

鎌ヶ谷の良いところは、大都市では、人口が多いということはその分対応しなけ

ればならない多く、そこに時間を割かざるを得ない部分があると思いますが、鎌ケ谷市はコンパクトなので、こうして皆さんが意見を出され、それが実行される率が高いのではないかと思うと、鎌ケ谷市の将来性がとても楽しみだと、今日参加させていただいて強く感じました。

ただ1点、鎌ケ谷市民として、30年住んでおります。愚痴を言わせていただきますと、「新鎌ケ谷ばかりきれいになって発展している」という印象があります。私は木下街道沿いに住んでいるけど、「何一つ変わっていないぞ」と思うところがあります。

木下街道は歩道がとても狭くて、子どもたちはそこで信じられない技術で自転車を滑走していきます。あの段差をあのスピードで行くのは、木下街道沿いに住んでいる子どもたちの技術だと思います。

ただ、本当に木下街道は「メインの道路」と書かれているけど、とても狭いです。イメージは地図とは全く違うので。

新鎌ケ谷も大事ですが、木下街道沿いの南鎌ケ谷地区についても、よろしく願います、という愚痴を最後に言わせていただいて、終わりにさせていただきます。どうもありがとうございました。

(会長)

はい、ありがとうございます。

(委員)

福祉の観点から申しますと、人口減少が見込まれ、なおかつ高齢化が進んでいく中で、高齢化が進めば、人の助けを借りる必要のある方が増えていきます。

いま、その「人を助ける」というボランティアのなり手が、鎌ケ谷市もそうですが、全国的に不足している状況です。

これは鎌ケ谷市だけで解決できる問題ではないと思いますが、国に働きかけて、企業が月に1回か2回、従業員にボランティア休暇を与える。その上で、その従業員が住んでいる地域のボランティア活動を行う、そういった制度を進めてもらえると良いのではないかと考えています。

もう一つは、先ほど木下街道の話が出ましたが、私も木下街道沿いで生まれて84年になりますが、鎌ケ谷は大きく変わりました。変わりましたけれども、まだまだ「鎌ケ谷の認知度」という点では、全然足りないと感じています。

ですから、もっと人的資源や社会資源を掘り起こして、それらを活用していくことで、鎌ケ谷市の知名度アップにつなげていただければ良いのかなと思います。

(会長)

はい、ありがとうございます。

(委員)

いろいろな問題があると思います。私は議員でも何でもありませんので。

「道の狭さ」は本当にもう鎌ケ谷の「常識」になっていまして、危ないと思いますよね。

先ほど新鎌ケ谷のことについても話がありましたけれども、「どこでお金を稼ぐ

のか」。鎌ケ谷にはお金がない。だから、お金がないから道も広げられない。その基本的なことをわからないと。

ですから、もっと鎌ケ谷のことを考えて、みんなが鎌ケ谷で買い物をするとか、いろいろなことを鎌ケ谷でやらないと、お金がない。よそからもらうことばかり考えないで、鎌ケ谷の中でどう稼ぐか、それが大事なんじゃないかなど、単純に思います。その原資となる「お金を稼ぐ所」が新鎌ケ谷で、そこで稼いだお金を他の地域に回す。それでいいんじゃないかなどと思っています。

あと、成田が近くて、外国人の方が、前回も申し上げましたが、「スリランカデー」をやっていますよね。非常に素晴らしい取組だと思います。

スリランカの方は本当に真面目な方で、東南アジアの中でも犯罪率がかなり低く、日本人と考え方が非常に一緒と聞いています。リーダーのサマンさんとは、商工会を通じてつながりがあります。

成田に到着した方が新鎌ケ谷に来て、ここが異文化の共生というところもありましたから、そういったところで、先ほどの空き家の部分ですね、住むところがないんですね。そういったところをしっかりと、鎌ケ谷に来れば、こういった住居もあるし、先ほど言いました企業さんの中でもう6割7割が外国人なんですよね働いている方は、工場なんかは。ですから働き口がないのかあるのか、あってもこないのかっていう問題があります。

本当にあの人たちは3年契約で帰っていかれるらしいんですよ。鎌ケ谷に根を生やして、暮らしていただけるような、外国人の方を誘致して、鎌ケ谷に来ればいろんな異文化があり、情報がありっていうそういう先ほど言った内容のコンテンツがあった部分で、鎌ケ谷は原野でしたから、歴史なんかほとんどないですから、ないものはない。では何をコンテンツにしていくのかということ、みんなが楽しく過ごせることだと思います。

あと、近隣の中で道の駅構想ということでいろんな規制があるかと思うんですけども、耕作面積とかそういったところで、商工会としましても、鎌ケ谷市さんですか、市議会議員さん県議会議員さん、国会議員さんが動いていただけるようなアピールもしてますし、お客さんをお呼んでくれるのは今50歳以上の方々は道の駅めぐりを毎週してましてですね。そこに来ていただければ鎌ケ谷のコンテンツすべてが見れるよとかそういった具体的なこともですね、鎌ケ谷の認知度を上げていくためには非常に重要なことだと思いますので。ぜひ、いろんなところで、この策定方針の中に入れていただければと思います。

(会長)

はい、どうもありがとうございます。

事務局としては耳の痛い話がたくさん出てきたかなというところもございますが、最後に私のほうでも少しお話をさせていただきます。

「耳の痛い」というキーワードの中では、道路の話が出てまいりました。私も鎌ケ谷で関わらせていただいたのが、「都市計画道路のプログラム」です。重点政策の中で、都市の骨格を担う都市計画道路をどうやって作っていくのか、優先順位を

どう考えようかね、という議論でした。

ただ、やはり土地というものは、日本の場合、買い取らないと前に進めないという、非常に難しい問題を抱えています。そういった面では、時間軸が非常に長くなります。しかし、その長い結果の中でも、変わってなかったんだなあ、今強く感じているところでございます。

私は千葉ニュータウンの小室に住んでおりまして、この沿線をよく使うのですが、昨日も車で移動して市川市役所に行ってきました。鎌ヶ谷の裏を通過して、ずっと初富を抜けて行くルートだったのですが、「やはり狭いな」と日々感じながら走りながら通過交通という、やってはいけない交通のアプローチをしておりますが、鎌ヶ谷は交通の結節点、要衝であることは間違いありません。

先ほど北千葉道路が、産業のインパクトをもたらすのか、あるいは構造物として地域を分断する要因になるのか、いろいろな指摘があると思います。成田と東京を結ぶ側面の中で、企業の方々はすでに成田から印西・白井へと立地展開の広がりを見せている。そのような中で、そこに住まう人たちとの交通結節点の要衝となる鎌ヶ谷は、非常にインパクトとしては高い位置にあると言えます。

一方で、放射状に広がるネットワークがやや脆弱であるという要素はあるけども、逆に、都心部と成田を結ぶ動線の中の「鎌ヶ谷らしさ」をどう出していくかというアプローチが取れると、市川市の外環道路の整備によって道の駅ができ、その道の駅が非常に活性化しています。それだけでなく、市川市内の一般道路の渋滞が激減したという市川市の評価がなされています。

では、北千葉道路ができて鎌ヶ谷の渋滞が解消するかというと、「うーん」という気がしないでもない。通過交通のトリップベースで軽減できるような方向性に繋がるかっていったところと、北千葉道路に集約されていくところがまた混むんじゃないかといろんな懸念があるかもしれません。

ただそれを受けた形の中で、都市計画道路も以前計画したところのプログラムですから、新たな道路がネットワークをした時に今後そういう道路の将来計画を、位置付けをどう考えて作り直していくのか、鎌ヶ谷市さんは考えないといけないのかなというふうには考えております。

また、もう一つ、これは私の完全なプライベートベースの話なんですけど、10月の段階です。息子さんの方から「お父さん、ちょっと1週間ほど休み取れない？」ということで、旅行に行ってきました。滋賀県美濃市に1週間行ってきました。

何しに行ったかということ、「保育園留学」という制度があるといったところで、全く知りませんでした。息子の働いている会社が企業提携をしていて、1週間そこで保育園留学をします。

それにあたっては、古民家、そういったところを貸出して、そこをライフワークの拠点として仕事ができる、そういったスペースも提供します。そういう形の中で「美濃市を知ってください」と、そういう政策展開をしている。そこで1週間行って来たんですが、子どもが自由に伸び伸びと遊ぶ。で、私たちはもう、解放されていますから、観光して周辺を回る。息子は1人、その施設に残って仕事をしてい

るという、そういった形をずっとしていたんですが。

何を言いたいかというと、人口を移住・定住という形で増やす政策をするっていうことだけではなくて、「関係人口」、こういったことを増やしていこうじゃないかという政策を、美濃市が取っているんですね。それを子育てを1つのキーワードにしてということで、知っていただくことからスタートする。

これがどの自治体にもできるかということ、そういうわけではないんですが、先ほどの話の中でも、「逃がさない政策をとるべきじゃないか」という考えをご発言されている方もいました。

総合計画を作っている時に、我孫子市さんは移住定住で、他の自治体から人を引っ張ってくる、これはもう政策としてやめましょう、ということを市長も宣言する形の中で、人口の関係性といったものを作っていく。

じゃあ何するの？ということ、「流出させない政策」をするんですと。我孫子市には文化といったものがあると。

そういった面では、その文化を大切に、きっとそこで育った人が学びの中で戻ってきてくれる、といった、その「味わいある空間」を作ることが、将来の次世代へつなげる一つになるんじゃないかと。

白樺派といった文豪が、なぜこの我孫子を場所として選んで、そこで新たな文化を築いたのか。そういったことを継承してくることによって、人の「住まう」という行動が、きっと変わるんじゃないかというふうに政策展開をしようという形を取りました。

先ほど文化といった側面ではコンテンツが若干少ない、といったところがあると。でも産業としての梨といったところは、もう全国的に広がっていると。そういった面では、「売り」の部分と「弱い」部分と、いろんなところが混在しているのがこの鎌ヶ谷かなといったところ。

ただし、エリアは小さいんだけど、その中で集約しているから、あまり他の自治体さんの委員の方たちで「何か期待できるね」っていった声って、あまり聞く場が少ないんですよ。

ということは、事務局は、今回計画を作ったら、計画を総花的に動かすのではなくて、「何か動いてくれる、動かしてくれる」という期待値が持てるような自治体なんだっていったことを、委員の方も感じられてる。こんな自治体さんは珍しいと思います。

そういった面では、期待を込められている以上、責任を持って事務局は取り組まなきゃいけないという重さがあるということ、プレッシャーを与えて私の発言とさせていただければと思いますので、これからの計画づくりにぜひ頑張ってください。

はい、どうもありがとうございました。

全体通してということですが、部長さん、全体のコメントに対して、みんなの意見を聞いた上で、ちょっと一言いただければと思います。

(葛山総務企画部長)

はい、ありがとうございます。

本当に皆様方から、いろいろなご意見をいただきました。

私も、「本当に、おっしゃるとおりだな」と思ったのが正直な感想でございます。

我々、本当に実効性のある計画をつくってまいりたいと思いますので、今後ともぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございます。

(事務局)

はい、どうもありがとうございます。

それでは次第に戻らせていただきまして、「その他」の中で皆様のお話を伺いましたが、事務局、何かございますでしょうか。

(事務局)

今後の進め方について簡単にご説明させていただきます。資料2の33ページをご覧ください。33ページは第8章の主なスケジュールでございます。

表の上から4行目の後期基本計画の策定に、今後、入って参ります。

まず庁内で検討を行ひまして、後期基本計画の素案の整理を行ひまして、本審議会に素案の諮問をして参ります。

最終的には本審議会における審議、答申を踏まえまして、令和8年度中に後期基本計画を決定するスケジュールとなっております。

本審議会の次回以降の開催時期でございますが、令和8年度中に3回程度開催することを予定しております。

具体的な日程につきましては、できる限り早い段階で委員の皆様にご連絡差し上げたいと考えておりますので、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが引き続きご出席のほどよろしくお願ひ申し上げます。

今後の進め方についての説明は以上でございます。

(会長)

はい。ただいま事務局からスケジュールについてご説明ございました。

特にご質問等はよろしゅうございますか。

それでは全体として何か委員の皆様方から、ございますか。大丈夫そうですね。

(6) 閉会

(会長)

それでは、本日の会議、以上で終了したいと思います。

ご出席いただき本当にありがとうございます。

また次回よろしくお願ひいたします。

以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和8年1月28日

氏名

井出 勝則

氏名

徳田 訓康
